

戦略

2023. 5. 25

私は、よく「戦略」という言葉を使う。戦略というと、あまりいいイメージをもたない人もいることと思う。だが、学校経営にも学級経営にも、ソフトテニスの試合にも、戦略は必要である。見通しをもって、計画的に、意図的に、物事を進めなければならない。

戦略というと、いかに戦いに勝つか、いかにうまくいくようにするかということ想起する人が多いだろう。ところが、最近、勉強したことがある。この戦略という言葉は、実は、まったく反対の意味の言葉だということである。そして、経営者やリーダーには、戦略思考が求められるという。

「戦略」と書いて、「戦（たたかい）」を「略（はぶく）」と読む。戦略思考とは、いかに戦うかの思考ではなく、いかに戦わないかの思考である。経営者は、無用の戦いをせず、目的を達するために、戦略思考を尽くさなければならない。それは、経営資源を無駄に使わないためではない。部下や社員の人生のかけがえのない時間を大切にするために、経営者は、戦略思考を尽くさなければならない。

これは、学校も同じであろう。校長は、先生方の人生のかけがえのない時間を大切にするために、戦略思考を尽くさなければならない。今まで、この点が弱かった。前例踏襲、例年通りでは、横ばいではなく、低下である。コロナにより、今までのことを見直すチャンスがやってきた。にもかかわらず、さほどの検討もなしに、コロナ前に戻していたのでは意味がない。

学校の先生からは、「例年は」とか「今までは」というフレーズが出てくる。これが染みついているかのようである。今は、せっきくのチャンスである。3年前の資料など見ずに計画を立てたほうがいいくらいである。

いかに、先生方の時間と労力をかけずに、成果を上げるか。やるべきことを絞り込むことが重要である。重点化というが、今こそ、必要なことである。一点突破とまではいわないが、それに近い戦略を考えたい。

今年度は、目指す学校像として「先生方が授業を改善できる学校」と「不登校が出にくい学校」を掲げた。この2つを、今までよりも時間をかけずに目指そうとしている。授業改善のほうは、みんなでやる現職教育、わかりやすい現職教育がカギとなる。不登校のほうは、早め早めの誠意ある対応と、打つ手を考え、それをやっていくようにすることが重要となる。

今まで使ってきた戦略とは、また違った意味での戦略を考えていきたい。これが、今まさに必要な戦略である。